

令和 7 年第 3 回姫路市議会定例会（未定稿）

令和 7 年 9 月 1 2 日（金）

○松岡廣幸議員（登壇）

午前中、最後の質問でございます。

お昼をまたいでしまうことを議場の皆様方にお許しを
いただいて、しばらくの間お付き合いいただきたいとその
ように思う次第であります。

通告に基づき質問をさせていただきます。

この質問はケーブルテレビを通じて、屋台保存連絡会
93 自治会の皆様は、その方々の注視の下で行わせていた
だく、そのような気持ちで臨んでおりますので、ぜひ真摯
なご回答をよろしくお願い申し上げます。

屋台文化保存連絡会が結成され、今年で 26 年であり、
その間、令和 3 年には播州祭伝統文化保存議員連盟が発足
し、屋台文化保存連絡会と共同して、屋台会館の建設に向
けて歩み出しました。

長年やってこられた屋台文化保存連絡会の総会等で清
元市長も何度も講演され、また我々議連も三輪敏之会長を
先頭に汗をかき、本年令和 7 年度に、初めて屋台会館の調
査名目で予算がつけました。

長い、長い道のりであったように思うわけでありませ
う。その長い道のりを諦めず、途中でやめることなくやって
きた。これこそまさに、祭り文化の殿堂、屋台会館の建設
ということだから継続できた。祭りのことだからこそ、誰も
途中で諦めなかったわけでありませう。

恥ずかしながら、何をしても何ができて途中で飽きて
しまうような、いわゆる初物食いの我々播州人の気質が、
この祭りだけでは何百年中途半端にできなかったこと、なら
なかったこと。これが姫路の一番の文化であると思われま
す。

その反面、行政は、私は令和 6 年第 4 回定例会で質問し
ました折に、持続可能という言葉が何度も返ってまいりま
した。いわゆる採算が合うということが大切であるという
ことであります。

これについて、私もこれまで市民の署名活動を基に完成
させた施設は市内にあるのかと問いただしますと、そうい
うものはないという答弁でありました。

そのときにも質問いたしましたが、では市民の皆様方が
欲しいと望んだ施設ではなく、行政側が必要と判断し、コ
ンサル調査を入れて、事業推進に問題なしということで、
我々議会にも大丈夫ですからと賛成させて進めた施設ば

かりが、現在ただいま、残念ながら持続可能の問題になっ
ているというのが現実であります。

しかしながら、そのような中で、例えば、手柄山の平和
資料館などは恒久平和を祈る立場から、採算を度外視して
も必要であり、継続するべきであると思ひますし、そう考
えると、世界文化遺産の姫路城を維持してきた、この姫路
の歴史や風土を表すものとしての施設も採算や持続性に
こだわらなくてもよいではないか。姫路を分かっていただ
く施設としてはよいのではないかと思ひるのであります。

特に世界文化遺産、姫路の歴史の象徴である姫路城を築
城以来、維持してきた旧姫路藩の中には、現在の屋台文化
連絡会に属する地域のみならず、広く高砂、加古川地域の
屋台祭りのあるところも大半が旧姫路藩領であります。

時代によっては現在の姫路市とは若干の乖離があるか
もしれませんが、そういう意味で、お城と並ぶ姫路の大切
な文化である祭りは、世界文化遺産姫路城をお城の領民と
して、姫路藩の領民として支えてきた地域の人々の生きざ
まであり、誇りであり、今それを受け継いでいる我々姫路
人の魂の躍動であると思ひております。

また、お盆、お正月に帰郷しなくても祭りには帰って
くるんだ。このような、姫路の特異性も含めて、従来の施設
建設という考え方ではなく、姫路唯一の施設という感じで、
まずは市民の皆様方に向けて、この屋台会館の建設調査と
いうことを当局のお考えをお聞かせいただきたく、以下 4
点についてお尋ねいたします。

最初に、通告の書き方がまずく調査費というような形
で上がってしまいました、形になってしまいましたが、調査
という大きなくくりでお尋ねをさせていただきたいと存
じます。

今年度初めて調査費をつけていただきまして、早速、議
員連盟も三輪会長を先頭に、屋台文化保存連絡会の方々と
一緒に先達である岸和田へ視察に行つてまいりました。

岸和田城のすぐ近くにあり、紀州街道に面して周囲の風
景によくなじんでいる建物でありました。

この岸和田のだんじりも、江戸時代より岸和田藩岡部家
の治世として、元禄時代には城内に稲荷神社を建立し、領
民のために領内の五穀豊穰を祈り、その後領民に参拝を許
し、現在は城内までだんじりが曳行される形になっており
ます。

かえつて我がまち姫路は、西国の要衝として、譜代大名
の入れ替わり立ち替わりが多く、最後は酒井家が幕末まで

佐幕藩として残りました。

それまでの歴代城主に祭りの奨励の声もなく、その酒井家が前橋から姫路に国替となったときは、姫路は寛延一揆の真っただ中でありました。

お国入りした酒井雅楽頭は、伝承によれば、鎮圧するために、一揆勢のその中でも特に手ごわかった浜手の大庄屋を引見し、祭り料を年貢からまけてやるから一揆を収めよと話をされ、それによって、それまでの行列に近い祭りが現在のような荒々しくなったと言われております。

岸和田と姫路、同じ祭りのにぎやかな地域でも、領民と一緒に五穀豊穡を祈った岸和田藩、一揆を止めるのに、祭りをにぎやかにやることを認めるといった姫路藩。伝説とはいえ同じ祭りのスタートがこうも違う。これこそが地方文化ではないでしょうか。私は余計に面白いと思うのであります。

この話をあえて申し上げましたのは、私は単に行政の箱物としてのお城の来場者何名、道路の通行量何名、滞在される方何名、来館される方何名というような、これまでと同じような調査では、これまでと同じ結果しか出ないと思うわけであります。

現実には調査するコンサル会社が多ければ、大きければ大きいほど、全国的なネームバリュー実績によって結果を出してしまうのではないのでしょうか。そのようなところから、あえて調査に対して、もっと様々な祭りに伴った物語をも多分に掘り起こしながらの調査にすべきと思いますが、ご所見をお答えください。

続きまして、今年度より、新編成されました施設マネジメント課についてお尋ねをいたします。

今年度より編成された施設マネジメント課について、その必要とするところと究極の目的とするところは何でしょうか。

また、この施設は屋台会館だけに特化した編成ではないにしろ、25年にわたる陳情と度重なる清元市長の屋台文化保存連絡会総会での講演、そして議員連盟の申入れと姫路市の中でも注目される事案だと思っておりますが、これに際し、行政として新しく作った施設マネジメント課の中に、屋台文化保存連絡会93地区に居住していらっしゃる職員さんは何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

また、企画政策室中には何人ぐらいいらっしゃいますでしょうか。これに対してもお答えをお願いいたします。

続きまして、先ほど申し上げました屋台会館の調査費に

ついて、金額の内訳、また、調査項目を詳細に教えていただきたいと存じます。と同時に、岸和田藩、姫路藩の違いのような歴史的な事案も屋台文化保存連絡会に事前に様々な聞き取りや意見交換をしなければ、どこにでもある通り一遍倒なセンターやホールの類いであり、イベントや資料の陳列に近いものになってしまいます。

そう考えますと、歴史の表裏も加味すると同時に、清元市長の屋保連絡会等での発言からも、前向きに意を汲み取らなければいけないと思いますが、その点も踏まえて調査いただくよう、調査項目がなっているのか。なっていないのか。また、なっていないければ、追加していただけるのかもお聞かせください。

最後に、本年度新編成の施設マネジメント課ですから、私は4月の新編成時には持続可能性の低い施設に共通する事案事項が発見できたと思います。

それらの現実資料を課をつくって緊急に対応しようということで、できた課ではないのかと思ったりもしております。逆にそれらが分からない、調べていない、把握していないということであれば、今後計画していく市立3校の統合や道の駅の新設、これから計画する屋台会館とこれから取り組む施設事業の計画に全く寄与できないということではないでしょうか。

それらが事実とすれば、名前倒れ、掛け声倒れで問題であると思いますが、これらの調査分析等については、4月1日、施設マネジメント課として発足以来、どのように調べてデータとして管理されているのかお示しください。

また、これらの施設の持続可能の情報は市の財政にとっても非常に重要なことであり、財政局としては持続可能性の特に低い施設の共通性などはどうの昔から把握すべきことだと思いますが、現状はどのようになっているのか。財政局の把握の実情を教えてくださいと存じます。

以上で、私の第1問を終わらせていただきます。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

政策局所管の部分についてお答えいたします。

まず、1点目の令和7年度播州屋台会館調査費についてでございますが、屋台を含む祭り文化の継承に関しては、これまで多くの市民の声に加えて、市議会におかれましても議員連盟を結成の上、要望をいただいております。

こうした声を通じて、歴史文化の保存継承のみならず、

観光の振興や教育、市民の誇りや郷土愛の醸成など、多様な効果を期待できる屋台文化の振興への強い思いは十分に認識しております。

屋台会館に関する調査委託業務についてでございますが、地域に根差した祭り文化の保存継承や観光振興、地域コミュニティの一体感の醸成を目的とした施設整備について、デジタル技術の活用、既存の公共施設等の活用、複合化も含めた実現可能性の検討を行うための基礎調査を目的としております。

今後、その調査結果を基に施設整備の実現可能性について検討を行うことを予定しております。

議員ご指摘の祭りに伴って伝承されている様々な物語につきましては、実現可能性の検討の結果により行うこととなる、今後行うこととなります基本構想を策定する上で参考になると考えており、その場合には併せて、そういったことも調査させていただきたいと考えております。

続きまして、3点目の調査費の執行項目についてですが、播州屋台会館に係る調査費につきましては、地域文化継承事業に関する基礎調査業務委託といたしまして、委託料により執行しております。契約金額は411万4,000円となっております。

調査項目ですけれども、他都市における類似施設の状況、本市の祭り文化の現況、それから施設の目的や方向性について整理を行うとともに施設案を作成することとしており、調査結果につきましては、屋台文化保存連絡会を含めた関係者の皆様へ共有することを予定しております。

先ほども申し上げましたが、このたびの調査は施設整備の実現可能性について検討を行う基礎調査となっております。内容の独自性といった詳細な中身につきましては、こちらも基本構想を策定する際に検討してまいりたいと考えております。

最後に4点目の施設マネジメント課が把握している市内公共施設の数、あるいはそれらのうち、持続可能性の低い施設に共通している事項についてということでございます。

公共施設数につきましては、令和7年4月1日時点で806施設となっております。

公共施設の持続可能性の低い施設の共通事項に関する調査分析につきまして、コスト面だけで見た共通事項で申し上げますと、収支状況や稼働率、1人当たりのコスト等の経年変化等が挙げられるものと考えており、各施設のこ

れらの情報につきましては、各施設所管課への照会を通じて施設マネジメント課においても把握しているところでございます。

一方で、公共施設の在り方につきましては、コスト面に加え、施設の目的、あるいは利用者の範囲、地域特性など市民生活への影響等を踏まえ、施設ごとに総合的に判断する必要があると考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

平田総務局長。

○平田貴洋総務局長

私からは、施設マネジメント課関連についてお答えいたします。

本市におきましても、人口減少が加速する中、公共施設の統廃合や民間活力の活用等、人口規模や人口構成に適した施設の在り方の検討が必要であると認識しております。

これまでも危機感を持って公共施設マネジメントに取り組んでまいりましたが、各公共施設を所管する所属によって取組状況やノウハウに統一性がないという課題がございました。

このような状況を受け、政策的な判断によりスピード感を持って本市の公共施設の最適化を実現していくため、今年度から公共施設マネジメント全般を担う施設マネジメント課を政策局に設置したものでございます。

配置している職員につきましては、屋台文化保存連絡会加盟地区等の居住地にかかわらず、職員のキャリアやスキルを見極めた上で、適材適所の人員配置を心がけております。

今後は、施設マネジメント課の旗振りの下、新たな公共施設等総合管理計画の策定をはじめ、持続可能な公共施設の在り方の実現につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

峯野財政局長。

○峯野仁志財政局長

お答えします。

4点目についてですが、先ほど、政策局長が答弁いたしましたように、施設の在り方につきましては施設ごとに総合的に判断しているところでございますが、このうち財政局といたしましては、特に財務面に着目し、予算編成や決算分析などを通じ、施設の運営コスト等、また、それに対

する財源であります使用料・手数料や入場料の見直し、あるいは各種補助金等の確保等により収支状況の適正化に努めております。

その情報は、各施設所管局はもちろん、政策局とも共有しておりまして、施設運営の方針に適宜反映されているものと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

ありがとうございました。

政策局長にお尋ねをさせていただきます。

先ほどの調査費の項目の中で、漠然とした形でお答えをいただいております。もう少し中身を砕いて教えをいただきたいと思います。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

調査費の中身ですけれども、先ほどお答えいたしましたとおりでして、委託業務ということで、411 万 4,000 円を契約として行っております。調査項目についてもお答えしたとおりでございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

先ほどの、ただいまのご答弁が大体、向き合い方やないかなというふうに改めて思ったりもしております。

政策局長さんとして、これまで清元市長が屋台会館の件で様々な講演をされて、屋保連の会報にも何度も載っておりますが、それらはご一読をいただいているでしょうか。これをお尋ねさせていただきたいと。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

市長が屋台文化保存連絡会、省略して屋保連と申し上げさせていただきますけれども、懇談会であったり、総会であったりご出席されて、様々な発言されていることは承知しております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

先ほど来、お尋ねさせていただきたいかというふうに思っていましたのがね、調査事項について例えば、金額 414 万 4,000 円ですと、総合企画であったり各種調査研究費であったり各種調査委託業務であったりという、その中身が要するに、姫路市として 26 年間、住民の 93 の地区が言うてこられた方々に対して、何をどう調査するのかっていうようなことが、私はこれ具体的に聞かせていただかへんかったら、もう急に降って湧いたような、会館の建てろと一緒にですかというふうに言いたくなってしまうんですけど、そういう意味で、先ほど言いました、調べてほしいのはこういうことなんやと、こういうことがどうなんやというようなことなのか、いや、もうそこはもう申し訳ないんですけどって、26 年、それは誰が言おうと、彼が言おうと、地域が言おうと、施設は施設、数字は数字やというような形でのご対応なのか、それをちょっと聞かせていただきたい。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

調査についてですけれども、整備の前段階として、施設の規模、あるいは類似施設の状況、整備手法等に関する基礎的な情報を整理した上で施設案を作成するというような調査になっております。

調査結果を踏まえまして、施設整備の実現可能性について検討してまいりたいと考えております。

その後に、屋保連の皆様のご意見だったり市民の皆様からのご要望、そういったことも参考にさせていただきながら、次のステップとして、目的であったり理念であったり展望といった基本構想、そういったものを検討してまいりたい、そういうふうと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

ということは、分かりやすくお答えをしていただいたような気がします。

ということは、まず調査、この調査であまり芳しくない。要するにこの調査を、このコンサルに 411 万円の調査費で調査いたしましたところと、なかなか持続可能性が難しいというような施設でありますというような形になっ

た場合に、先ほど平和資料館等のお話もさせていただきましたけれども、それから先であれば、いわゆる会館の新設についてはやらないとそういった考え方もあるというふうに理解をせないかんのでしょうか。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

このたびの基礎調査の調査結果に基づきまして、庁内横断的に施設設備の実現可能性について協議を行って、方針のほうを決定することになると考えております。

ですので、調査の中でどうこうということじゃなしに、調査の結果には施設の案まで出していただくようになっていますので、それを我々のほうで、組織横断的に整備の実現可能性について協議を行って、どうするのかということを決めることになると考えております。

以上です。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

ありがとうございました。

今おっしゃっておられた中で、当然、一番最初の調査であって、それからまた、その調査を基に様々に庁舎内で打合せ、相談させていただいて、それからやるやらないを決めるということでよろしいんですか。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

方向性としてはそういう方向性でご理解いただいて結構でございます。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

ということの中で、先ほども言いましたね、平和資料館のこともお話をさせていただきました。平和資料館開館、誰も来なかったから、3 年ほど誰も来なかったから、じゃあ潰しましょうかと、やめましょうかという声、なかなか上がりにくいというふうに思います。

ほんで、そういった意味で私も資料も頂戴もしました。様々に姫路市内の中に収支がね、伴っているか、伴っていないかというようなところもございます。

そやけども、前回は言いました。また今回も言わせていただきました。今までの施設は、皆さん方がこういうものが必要やということで出してこられたことと違いますかと。

そういった中で、初めて、ひょっとしたら初めてかも分からないなと。姫路の歴史においてですよ。10 万人の姫路市民の方々がこんな建物が欲しいんやということを行行政に言って、それは清元市長の間にできたというような格好のことは、未来永劫、市民が望んだ、それこそ地方自治の殿堂と言ってもいいような形だね。そういったものが残るんじゃないのかな。

それと同時にね、これは逆に言うと、それをやってほしいという屋保連さん、また地域の方々もその建物の維持に当然、自分たちが造れっていうんだから、造った後、役所に任せますよということではなくて、協力をして、それらを維持するというような形のことで、だからここね、この調査が上がってくる、まだ調査が上がってこない先から、私が転ばぬ先のつえのことを言って申し訳ないんですけど、今までのように、ああこれ無理やでというような形っていうものと違って、お祭り、これ毎年するわけなんですね。だから、私はマネジメント課に、屋保連の所属している自治会の方ちょっとぐらいおってですかと。

これは、祭りというのが、我々が言い方悪いんですけど、総社の何かのお祭りっていうような形で、季節の1 つのお祭りは輪ぬけであったり湯立てであったりっていうふうな、捉まえ方とそれと同時に、先ほども言うた、盆正月帰ってこなくてもこれには帰ってくるんやと、一昔前の言い方をすれば、いやもう、しゃばにおるもんはみんな祭りに帰ってくるねんというような、あの家、祭りに帰って来てへん、何しとんや、どないしとってん、捕まってもたんかいなという言われるような、そんな昭和の、大正の古い時代の話もあります。

だからそういったようなことの状況、地域の状況の中でですね、今言いましたように、調査というようなことだけでやっていただくというのはいかなものかなあと。

それと同時に横断的にお話をするというような格好のことになっておりますけれども、その皆さん方の横断的な意見の中にもね、状況が分かっておられる方がどれぐらいおられるのかな。

だから、一旦調査費が出たというような中で、そこらの後の審議には、屋保連の皆様方にも参画をしていただいて

ね。それからどうというような格好のことを決めるべきじゃないのかなあというようなことが1つ。

それともう1つは、やはり26年、口でこそ言いますが、なかなか、市長さんも26年もされた市長さん、戦後おられないと思います。

だからそれぐらい長きにわたって、大勢の地域の方々が言ってこられたというような、戦後、姫路市の最大の地域要望言うても過言ではないような事柄でございます。

それがようやく、天の時、地の利、人の和を得たのかなあ。清元市長で動き出したというような格好のことが、これが天の配剤なのかなあというふうにも考えながら、こちらについて、やはり、今までの施設ってというような形と全く一緒に取り扱っておられるようなちょっと答弁が続いたので、そこは政策局長としては、一応そういう言い方をしなければいけないのかも分からないんですけど。

少し歴史も、その長さも、熱意も言っておられる方々の数も違うと思うんですけど、そういったところ、いかがお考えか聞かせていただきたいなと思います。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

お答えします。

2点ご質問いただいたかと思っております。

1点目、調査の後、屋保連さんの意見を聞きながらといえますか、そういうようなご質問だったかと思えます。

最初の答弁でも申し上げましたんですけども、調査結果出したら内部でしっかり分析いたしまして、屋保連さんや関係者の方に、調査結果の方は共有したいと考えております。

その中で、やはり共有する中でいろんなご意見、ご要望出てこようかと思っております。そういったご意見、ご要望、あるいは市民の皆様からのご意見なんかも出てこようかと思えます。そういったものを参考にさせていただきながら、次のステップ進んでいきたいと、まず考えております。

それから、26年の長きにわたってということで、その当たりどういふふうに捉えているのかというご質問だったかと思えます。

政策局長、前任、またその前任から、資料引き継いでおりますけれども、大変分厚いといえますか、中身の濃い資料引き継いでおります。

私も目を通させていただいてこの場に臨んでおりますけれども、過去からのそういう経緯踏まえますと、住民の皆様、屋保連の皆様の思いというのは、大変大きいものだと、そういうふうには認識しております。

そういったことは十分踏まえて、ただ一方で、昨今、公共施設の最適化っていう観点も強く求められてるのも事実でございます。

新規整備には、整備の内容とか整備手法とか、その効果であつたり、そこはしっかり分析しないといけない。それは我々の仕事かなあと思っておりますので、両方思いを持って取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

ありがとうございます。

先ほど政策局長がおっしゃったその思いであつたり、やり方であつたりということを様々にあるかも分かりませんが、例えば1つ1つの施設、また1つ1つやろうということに、私もよく議員として思うんですけど、駅前でね、1回シールでも貼って市民の意見を直接聞いたら、どんな答えが出るんだろうかなあというようなことをね。

だから、先ほど牧野議員の厳しい航空運賃のことなんかもありましたけれども、市長の思いもそれはそれで言うておられましたけれども、そやけども片一方でやっぱり要るのはいいと言いながら、片一方で高齢者のお祝いなんか削減せなあかんような格好になって、結構私ら議員もどやされました、老人会の方に。

だからそういうようなことをやっていながら、このぐらいのお金が出なかったのかなあというような気もしますし、そしてまた、3つの学校を統合して大きなお金を入れる、また道の駅を造って大きなお金を入れるということも、これからある。それらをやる前から言うてるんですけどね、10万人の方々は。

だからそこら思うと、少し、いや急に降って湧いたように今年予算をつけたから、調査をつけたから、もう今から、今の目線で今の調査なんやということも、その半分は分かりますけれど、あと半分じゃ今まで何やったのっていうようなところ、いうようなところも、屋保連を構成する地域の方々からしたら、たくさんあると思うんですね。

だからそういったところに目配せをしてやっていただ

かんと、これから先、極論で言う和我々、屋台文化保存議員連盟、12 名おりますけれどもね、これ反対して、また次のこれを賛成せないかんと。

じゃあ、これどうなの、あれどうなのって言ったときにね。やっぱりただ単に、出納がよかった、出納が悪かった、収支がよかった、収支が悪かった、持続可能性があった、なかったというような格好のこの中で、先ほども言いました、平和資料館であった、中央市場であった、何であったとは、もうそら赤字でも何でも、それは置いとかなしようなんですわってということもね、たくさんあるでしょうし。

また、行政がやらなければ、民間がやらないということは、それは多少の赤字が出たってやっていけないけないというところがあるというの分かった上でね、せやけども、それと同時にこれも私が議員だから思うのか、市長も思っていたらと思うんですけど。

我々もこれ、市民の皆さんのお金を預かって、姫路市というものが預かってね、姫路市のお金じゃないんですよ、姫路市民の皆さんのお金やというふうに考えたら、いやそんなところで使ってもらいたいと思ってなかったのになあというようにところもあるかも分かりません。

だから今、先ほどまた出ましたから、お話をさせていただきですけど、外国で色々なお城と提携してね、それはそれで先を見越した様々な将来にわたってというような格好、でもこの祭り文化ってというような格好のことも、ただ単に、そのとき、そのとき、ただ単に祭りのことを展示して、屋台を展示して、彫刻を提示してということだけではなくてね。

例えば、これから新しく 1 つのお話をさせていけば、屋台のない地域が屋台を造ろうか、小さな子ども屋台の地域が大きい屋台を造ろうかって言ったときに、姫路市はまだそこまでの財政があるかないか分かりません。

でも、言い方は悪いかもわかりません。下世話な言い方も分かりませんが、公民館の建て替えに従来の 1,000 万が 3,000 万の補助金になりました。これが例えばね、子ども屋台が大きな屋台になるときに補助金が出るとか。屋台を造ろうかっていうたら補助金が出るとか、その代わり、例えば、これに対して青年団や青年会や、若い人たちの組織も一緒に作ってくださいと、それが条件ですとそれが何人以上いて、運行ができるということが条件だったら、それ返しますよってというような事柄が逆に言うと、

私から言うたら、その祭りっていうものを維持すると同時に、姫路市にとっては自主防災会なんか、今、現実のことを言うと、高齢者ばかりが出てきてやってる。

それらがそういう祭り文化がある地域は若い人が集まってくる。ここらの違いがあったら、地勢というのはやっぱり、先ほども言いました酒井の殿様が、もう一揆、ぼちぼちに抑えてくれというのも政治。

だからそういったことで、屋台文化というものは様々に広がっていくんやっていうことも、あえてお話を聞いといていただかないといけないのかな。

また、こういった形をこの議場で私が言葉として、屋保連の皆さん方の気持ちを代弁して言うとかないと、やっぱりできたデータの数字だけはじいて、これがよかったんや、あれが悪かったんや。じゃあ、もっと景気のよい時から言うと思ったのにみたいな話にしかならないような気がします。

だから、そういうような面で行政っていうものが、いわゆる政治的な言い方になってしまうか分かりませんが、行政としても、その祭りを運営する組織っていうものに対して裾野が広がれば広がるほど、今の自治会さんが、どこまで維持できていくかって。

しかし、その失礼ながら、やっぱり祭りというものがあって、若い人たちがそこへ集まってくるということになっていくと、その地域の将来性っていうことを見越せるし、子ども誰もおりませんねんと、その限界集落じゃないけれど、だから限界集落になりそうなところへ、逆に言うたら、そういった文化があるということで、維持できるんやというふうに考えたら、ただ単に箱物やと、ただ単に経費がかかるんが、どんだけかかるんやと。

平和資料館を建てて平和のことを植え付けてね、平和が大切やというような格好のお話をするためにあれを維持できない施設というふうに扱わへんのであれば、その辺も屋台会館等もこの文化の継承、伝承、プラスアルファこれからの未来に向けても使っていただくような施設として考えていただくところがあってもいいんじゃないかというふうに思ってるんですけど、その辺ちょっと聞かせてください。

○石堂大輔議長

山本政策局長。

○山本 聡政策局長

祭りの文化、祭りがですね、本市、あるいはこの播州に

において、コミュニティの維持とかコミュニティの形成に大きな役割を果たしてるんだと、そういうご示唆だったのではないかというふうに受け止めております。

そういった点もしっかりと今、事業者に調査を委託してるわけですが、そういった点も事業者ともしっかり共有しまして、まずは基礎調査、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○石堂大輔議長

34 番 松岡廣幸議員。

○松岡廣幸議員

最後、要望というような形で、先ほど来、くどくどと申し上げましたけれど、例えば、知ってる人らがその中に加わるということは非常に大事な点というふうに思っています。

今日、先ほど私が申し上げた、その祭りっていうような地域の特性っていうことも申し上げましたけれども、極論で言うと、屋台会館ができて、それを姫路市だけが維持せずに、屋保連さんと一緒に維持することによって、屋保連さんを維持する自治会、みんなが入れ替わり立ち替わり当番制のようにして、その会館の運営に様々な協力していくとね、行政で様々なことをそこで売ったりできないかも分かりませんが、民間ベースで任せていたら、そこで様々なお金もうけもできるんじゃないか。そこらを充当するというような格好のことで、いろいろな多角的なところから、考えられるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういった面でしっかり調査の上の検討がただ従来どおりと、それを見せていただいて決まった結果がね、また1年先になるのか、半年先になるのか、ここで私がその項目捕まえて、こうだあだと言わずに済むように、1つお願いを申し上げまして、要望として終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○石堂大輔議長

以上で、松岡廣幸議員の質疑・質問を終了します。